

患者として、医者として

三四回生 竹内 緑

(蒲生)

懐かしい千里山にまつわるお話と思いますが、かの地をはなれて、もはや三〇年以上経ち、記憶力の乏しい私には残念ながら断片的な記憶しかありません。

今思えば、千里山では古き良き時代をのんびり過ごしたの一言に尽きます。私が子供のころは戦後の混乱期を経て千里山の町も新たな発展を始めたところで、田んぼや畑、林だった千里山駅の反対側に新しく団地や松が丘の住宅地が出来たり、元の住宅地が広がって、豊中市との境界付近にまで達しようとしておりました。また地理的な発展だけでなくそれらの新しい住宅地には日本各地からの転勤族の受け入れがあり、大阪以外の新しい文化の流入に子供心にも世界が広がるのを感じたものです。千里山を遠く離れた今、そんな環境で育ったことを嬉しく誇りに思っています。

のんびりしてはいるが、新しい物への抵抗感のない

ポジティブな私の性格はこのような環境で育まれたのでしょう。四二歳のある日突然 医者になろうと決意したのはこのような性格がおおいに関係していると思います。実家が医者で嫁ぎ先も医者という環境の影響もあるでしょうが、人生の半分を過ぎようとした時、ふと青春時代の思いがよみがえり、果たせなかった志にもう一度再挑戦し、心残りのないようにしたいとの思いからでたことでした。

思い叶って、医者になった今、これでよかったのか悪かったのかの評価は難しいところではあります。体力や知力において衰えは確かにありますが、医療が多様化した現在、わたくしのようなものでもすこしはお役に立てる事もあるのではと思っています。

ストレートで医者になった方と違って医者になるまでの人生が長いので、つまり一患者として立場や経験のほろがとて長いから患者さんの気持ちが一と一倍感えるし、遅ればせながらも医者の端くれとして医療現場に立った今では、医者側の事情もよくわかるのです。

そこで私が感じた患者さんと医者との意識のずれについて両方の立場から書いて見たいと思います。異論、

反論いろいろあるでしょうが、今後の参考にしたいだければ幸いです。

まず、皆さんは今健康だから医者なんかと係りたくないとお考えではありませんか。病気になるたときにあわてて医者を探すのは間違い。健康なときからの医者とのつながりが大切です。

なぜかという健康な状態と一口にいつても個人差があるからです。その人の健康なときを知らないとい病的な状態の評価が難しいのです。特に高齢になるほどその傾向があります。また患者さんの今の状態を点で捉えるより、過去からのつながりのなかで線として捉えるほうがより正しい診断をすることが出来ます。ですからふだんから信頼できるいつでも何でも相談できるようなお医者さん、つまり「かかりつけ医」を見つけるような心がけておくことです。

それから、皆さんは、医者とながつけば病気のことで、治療のことはなんでも知っているとお考えになつてはいらっしゃらないでしょうか？ 医者にたいする過度の期待は禁物です。特に医療が高度化、複雑化している現代では専門医でないといわからないことや出来ないことがたくさんあります。ですから、いざ難しい病気が

になったときには、いかに早くその病気に詳しい専門の良い医者に出会えるかが運命の分かれ道です。

そこで、かかりつけ医としては、必要なときに確に専門医を紹介できる人、そのためには常に最新の医学知識を積極的に取り入れ、情報を手するよう努力されているような人が理想的だということになります。ところで、皆さんは医療機関は命にかかわることだから、病院はいつでも病人がいて医者がいるから、24時間いつでも同じサービスが受けられるはずと思っ

ていませんか？
どんなに大きな病院でも、一般には正規の外来診療時間内とそれ以外では医療水準に大きな差があります。昼間と違って最低限の数の医者しかいませんし、夜間に出来る血液検査やレントゲン検査は限られています。ですから殆どの場合正確な診断ができないため、治療も主に対症療法といって、ただ症状を取ったり、和らげるだけのことでしか出来ないのです。極端なことをいえばその場しのぎのことしかしてもらえません。余裕があれば正規の診療時間内に受診するのがお得です。さて、皆さんは自分が飲んでいるお薬の効用と名前をご存知でしょうか。「とても素晴らしい掛かりつけ医

がいて身体のこととは全ておまかせします。」という方でもこれだけは頭に入れて置いてください。

人生一寸先は闇です。なにが起るか分かりません。急にたおれた時、かかりつけ医にすぐ連絡がとれるとは限りません。そんな時、診察する医者が真つ先に氣にするのはふだんどんな薬を飲んでいるかという事です。薬には副作用、相互作用があり治療上患者さんが飲んでいる薬の情報が即座に必要となります。それに飲んでいる薬が正確にわかれば、患者さんの健康状態のバックグラウンドつまり、どんな病氣を持っているのか、すぐわかるので診断や治療がスムーズにすすみます。

また、定期的に飲まないと即座に支障をきたすような重要な薬の場合、正確な薬品名がわかればすぐ処方してもらえるので安心です。阪神大震災のとき、あの混乱の中でかかりつけ医と連絡がとれないため、常用の薬品名が分からず、受診した医療機関でいつもの薬を希望してもなかなか処方してもらえなかったケースが多発したことをうけて、それ以来薬品シートに「日本語」で薬品名を印刷するようになったことをご存知でしょうか。もしいま常備薬をお持ちでしたら今すぐ、

ご自分の薬の名前を確認してみてください。

病氣には三種類あります。一時的な病氣と慢性的な病氣と、そして、現在の医学では治らない病氣です。それぞれの場合で病氣に対する心構えを変えたほうがいいと思います。

一時的な病氣の場合は例えば肺炎とか虫垂炎などは必ず治すのだという迫力が大事です。外科的治療や薬や点滴等の内科的治療に加えて、患者さんの「病氣にたちむかって行く」氣持ちが良い方向に働きます。

しかし糖尿病や高血圧などの慢性的な病氣の場合は立ち向かうというよりは、病氣と氣長に仲良くつきあっていくような氣持ちで日々を過ごしたほうがよりよい結果をうみだします。但し、病氣をおそれてせっかくの人生を萎縮させてはつまりませんが、悔つてもいけません。あせらず、めげず、根氣よくつきあってください。良いかかりつけ医はそんな患者さんのパートナーとしていつも支えてくれるはずで

す。そして最後に、残念ながら今のところ治療法がないような病氣に関してはどうすればいいのでしょうか？ 大変難しい問題です。正直に言つて正解はありません。ケースバイケースです。ご本人の性格、年齢、家族関

係、社会的地位等、色々なことを勘案して慎重な対応が必要で。こういう時こそ、日ごろからの付き合いの長い、信頼できるかかりつけ医が活躍するときです。

事故や突然死であつという間に終焉を迎える人以外は、いつかは治らない病氣にかかつて最後を迎えます。自分らしく人生を全うするための一番の味方となるような医者として日ごろから主治医としてお付き合いして行かれますようお願いして、わが拙文の最後といたします。

竹内緑氏の略歴

千二小 吹田一中 北野高校
京都大学 薬学部卒
医師竹内明輝氏と結婚、竹内病院の薬剤部門担当の傍ら、日本医科大学卒 現在、医師としても院長をアシストして病院経営に当たる
千里山会では九八、九九年の総務（発信）を担当しました。

編集部より

今回三四回生の中から竹内緑氏に原稿をお願いしていたところ、我々が日常生活を送るうえで大変示唆に富んだ随感を寄せていただきました。HPを検索しましたら竹内病院の概要が判りました。参考までに左記いたします。

竹内病院

創立：1945年

住所：〒116-0002 東京都荒川区荒川6-7-8

東京メトロ 千代田線 町屋駅 徒歩50米

京成町屋駅 都電荒川線町屋駅

電話：03(3892)7771（代表）

診療科目

内科 小児科 循環器科 消化器科 呼吸器科

膠原病科 リューマチ科 アレルギー科 泌尿器科

リハビリテーション科 人間ドック

院長：竹内明輝 東京大学医学部卒 国内及び米国の

大学勤務の後、平成4年より現職。